西東京市市民協働推進センター

平成 25 年度第 9 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 25 年 12 月 17 日(火)午後 7 時～8 時 25 分
■開催場所：イングビル 3 階第 1、2 会議室
■出席委員：有馬委員、岸委員、久保委員、熊田委員、小嶋委員、坂口委員、田中(友)委員、田中(紀)委員、富沢委員、豊永委員、中村委員、藤江委員＜以上 12 名、五十音順＞
■事務局：内田センター長、細田、栗山事務局長、丸木地域福祉課長、塚澤主事

１．報　告　事　項

１．業務報告について

事務局より、11 月期の事業説明、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談対応状況について説明があった。

委　員：地域連携促進事業避難所運営ゲームのアンケート回収結果が 12 名とあるが、「有意義」8 名、「役に立った」8 名と合計人数が合わない。

事務局：異なる問への回答のためである。

委　員：アンケートの回収方法について伺いたい。

事務局：避難所運営ゲームの直後と、その後に開催された懇談会の場と回収の機会は 2 回あった。

委　員：開催当日のアンケート回収率は高いと認識している。今回、参加者 39 名うち回答が得られたのは 12 名だけということでアンケート回収率が低い。回収できなかった理由を含めて反省があると良いと思う。

委員長：今後のふれあいのまちづくり住民懇談会の場で「この前どうだったのか」と聞いていただき、「どうしてつまらなかったか？」などのネガティブな意見を集約し、次につなげると良いと考える。

委　員：ふれあい碧は 10 月防災訓練を目的に体育館にたくさん集まった実績がある。今回も防災関連のゲームということで 40 人ほどの参加があった。通常、1 テーブル 4～5 人のところに今回は 10 人ほどと多く、ほとんどが年配の方であり、ゲームに参加しない方もいた。その後の懇談会はお茶会の要素が強く、アンケート記入及び回収は難しい状況だった。今後、事前打ち合わせの段階で段取りを詰めるようにすべきと考える。

委員長：アンケートは紙に記入するだけでなく、懇談会中に聞き取り、事務局がそれを書きとめる方法もあると思う。

委員長：まちづくり円卓会議は、いい雰囲気で周りにいる当事者からも意見が出ていた。このような状況で継続して開催できれば良いと思う。今後、横の繋がりを活かし、このテーマについて、「今後、何をやっていけるのか」をセンターとして促し、ある程度の横の繋がりや人間関係ができた段階で任せるようにしていけば良いと思う。

円卓会議はマルチステークホルダーという、いろいろな立場の当事者が集まり座を組んで話すというのが趣旨である。今回は同じ分野の人が多いと感じた。本来的には企業、商工会、行政などさまざまな立場の人が座の中にいるべきであり次に展開するために声掛けをして、少しずつ繋がっていくと良いと考える。

委　員：円卓会議の議事録は取っているのか。

事務局：今年度は3回行う予定で、全てが終了次第に報告書を作成する予定である。
委員長：自分の所属団体の代表として参加・発言するのではないというのがルールであるので、言質をとるような議事録にはしないように留意してほしい。

委　員：相談記録の中でイベント情報配布先について運営委員会に相談とあるが、具体的な内容を説明してほしい。
事務局：ホームページに掲載している登録団体のイベント情報をもとに、イベント情報のチラシを作成している。現在、大規模マンションを中心に配布しているが、もっと多くの場所に配布して欲しいとの要望があることへの対処についての相談である。
委　員：社会福祉協議会の募金箱と一緒に置けないのか。
事務局：設置することはできると思うが、今後、ゆめこらぼ通信などの通常配布ルートで配布したいと考えている。

２．12月以降の事業について
事務局より、12月以降の実施事業について説明があった。
委員長：12月7日開催のNPO市民フェスティバルに参加した方の感想やご意見を伺いたい。
委　員：今回「お父さんお帰りなさいパーティ」を初めての試みとして実施した。当初、集客など心配はあったが、30名近い方の参加があり、全体的にプログラム通りで大変に上手くいき、次に繋げることができたと思っている。
委　員：「お父さんお帰りなさいパーティ」が前面に出たため、対象者が自分の所属団体の趣旨と合致しないように感じたので参加を辞退した。多数のイベントがあるので、今回のように開催の目的がわかり易いと、団体として参加可否の判断ができるので良かったと思う。
ゆめこらぼより、公民館のチャレンジ講座「協働のまちづくりを目指して」で市民団体・NPO団体の事例報告と交流会のための参加協力の募集依頼があったが、その講座の参加者の年代などの情報が知りたい。
事務局：詳細に関しては、個別にお知らせしたい。
委　員：今回のNPO市民フェスティバルは、パフォーマンスのような派手な演出はなく展示中心で、親近感があり良かった。毎年、集客が課題となっているが、今年は同時開催の「お父さんお帰りなさいパーティ」で、意志のはっきりした方が参加したこともあり、実のある活動となった。
ツアーでは満弁なくブースを回れたのか。
委　員：参加者に興味のある分野を聞くなど、1グループ4、5人に対して1名ついたベテランのコンシェルジュが工夫して平均的にまわったはずである。
委員長：分野に分かれているので、興味のある分野別のグループで回ることも一つのアイディアと思う。
委　員：「お父さんお帰りなさいパーティ」のアンケートによると「もう少し見る時間が欲しい」「ゆっくりお話を聞きたかった」「少し自由に見たかった」などの意見が多かった。主催側は「2時間は長すぎて飽きてしまうのではないか」「見学しないで帰られてしまわないか」など危惧していたが心配する必要はなかった。
委員長：今回、5回目のNPO市民フェスティバルということでかなりNPO同士の横の繋がりは出てきていると感じた。当初の目的はかなり果たせてきたのではないか。アンケート回収は54人でその半分は活動の経験がないということだった。来年度以降は、活動経験のない人や若い人達などの

新たな対象者に対して、どのようにアプローチしていくかが次の課題である。
市長にはゆめこらぼのこれまでの経緯、培ってきたことや活動意義などをお伝えすることができた。NPO や市民活動に携わっている人が委員になっている運営委員会に是非お越しくださいともお伝えした。

事務局より、運営委員 1 名退任に伴う新たな名簿の報告があった。

２．審　議　事　項

１．前回の会議録について

委員長：退任する運営委員の名前を明記しても良いのではないか。
事務局：新しい運営委員の名簿はホームページに記載し、会議録にも名前を明記することとする。
委員長：そのように加筆のうえ、確定稿とする。

３．協　議　事　項

１．行政職員と市民活動団体との懇談会について

委員長：ワールドカフェは好評だと聞いたが、実際に昨年出席した方はいるか。
委　員：普段接触のない行政の方と話せたことは良かったが、ワールドカフェ形式だとその場限りの呼び名を使用するので、行政のどのような立場の方かがわからなかった。
委員長：最終的に成案を出さなくてもよい懇談会だと思うので、ワールドカフェ形式が良いと思う。他に意見はないか。
委　員：ワールドカフェ形式の場合、模造紙に書いたものを書き起こしする作業をしなければならない。昨年は、テーブルに残ってテーブルを移動してきた人に説明する人はいたが、書き起こせず終了してしまった。
委員長：上手に書いてもらい、書き起こすやり方が必要である。
委　員：多数の団体から応募があった場合、全員参加できるのか。
事務局：応募団体数による。30 団体程度となると全員参加は難しいと思う。
委員長：テーマによっても参加者数は変わってくる。
事務局：テーマは専門分野に偏ることはしないつもりである。懇談会に行政職員にも幅広く参加いただくためでもある。
委員長：3 つのテーマ案について他に意見はないか。
委　員：2・3 回目はどういう経緯でテーマを決定したのか。
事務局：初回はテーマを設定しなかったため、議論の方向性が定まらなかったという反省点があった。2 回目は集まりやすいテーマおよび分野を特化するということで「子育て」を設定した。
委　員：3 回目の「地域安全」はどうやって決定したのか。テーマ決定は過去の内容の延長線上で考えた方が良いと考える。過去の経緯をわかった上で、戦略を立てていくのが大事と考える。
事務局：2 回目、3 回目を同じ路線でいくと同様の参加メンバーとなってしまうことが予想されたため、行政職員と幅広く懇談するという目的に鑑みて、異なったテーマ（まちづくりと地域安全）を提案した。
委　員：協働コミュニティ課は参加しやすいと思うが、他の部署からどれだけの参加が期待できるだろうか。

事務局：昨年の場合、行政側からは幅広い部署から20名程度参加があった。
委員長：参加された課はどれくらいか。
事務局：10課程度と記憶している。
委員長：他に考えられるテーマはあるか。
委　員：環境や緑を提案したい。緑に関する多くの市民活動団体があるが、最近相続などの問題で緑が失われる傾向にあるので、問題に対するヒントがほしい。
委　員：国際教育に関するテーマを取り上げてはどうか。小学校高学年で英語を必須科目にする国の方針が出ている。その効果や西東京市としての今後の方針を知りたい。
委員長：教育というテーマで、もう少し広げることも考えられるのではないか。
「市民力」という案もあったが、これに関しては行政側からの参加は難しいのではないか。
また、担当課が存在するテーマの方が良いのではないか。基本方針が出たこともあり、地域コミュニティというものをNPO側にも周知し、地縁組織にもNPOが関わるということで「地域コミュニティ」をテーマにすることもあると考える。いろいろな意見が出たので、事務局で集約して欲しい。

２．調査・研究事業について
委員長：以前議論した内容の修正企画案である。皆さんの意見を伺いたい。
委　員：大規模マンションでいきなりアンケート調査をするのではなく、突破口として消防訓練や避難所運営ゲーム等を消防署や警察署と一体となって実施することで、ゆめこらぼやNPOのPR効果につながるのではないか。
委員長：調査研究だが、目的は市民とNPOとの障壁を取り除くための方策を考えること。対象を大規模マンションに特化するということは、地縁との関係が薄いとの仮説を立てた上で、地縁や地域とどう関わっていくかを想定して質問項目を作成する必要があると考える。ゆめこらぼを知らない人に要望を聞いても意味がないと思うので、もう少し精査する必要がある。調査報告書には提案や次の方策が記載できることが重要だと考える。
委　員：この調査では、地縁に関して意識が低く関心の薄い層のニーズを知る事やそのような層に対するアプローチ方法を模索することなど、大きな意味があると思う。
委員長：調査は慣れていないと難しい。貴重な予算を使って行うことなので、専門家との相談や助言を得て調査することも考慮すべきと考える。
広報のアプローチ先として大規模マンションとの関係性はできているが、調査研究の対象として大規模マンションが目的にかなうかどうか考える必要がある。調査対象を大規模マンションに特化することの意義を明確に文章化できることが望ましい。

４．　そ　の　他

1・次回運営委員会日程について
■　日時：平成26年1月21日(火)午後7時～午後9時00分
■　会場：イングビル3階　第1,2会議室